

[要旨]

現代日本社会の「ハーフ」をめぐるライフストーリー分析 ——コンネルの制度論による家族・学校・職場・街頭に関する考察——

田口 ローレンス吉孝

現代日本社会において「ハーフ」と呼ばれる人々について、かれらが直面する差別的体験や日常生活で投げかけられるステレオタイプの実態とその帰結、それらに対する当事者の抵抗や対応のあり方について従前の社会学の領域では十分に研究が蓄積されてこなかった。そこで本研究ノートは「ハーフ」とよばれる12名の成人世代の語りに着目し、かれらのライフストーリーにおける様々な社会的場面での経験を明らかにする。

特に多様な社会的場面の中でも、コンネルの「制度」に関する議論を参照し、「学校」「家族」「職場」「街頭」という四つの制度に着目した。そしてこれらの制度がいかに構造化されているのか、それが当事者にとってどのような帰結をもたらしているのかを明らかにした。

当事者のライフストーリーを分析することで、これらの制度が人種・ジェンダー・エスニシティ・宗教などの要素の交差によって構造化されている状況を明らかにすることができた。また、偏見や差別が単にシンボリックなものとしてではなく、親密圏内部の葛藤、学校における周囲との同化や自身のルーツの否定、就職差別や業務でのクレーム、街頭における人種差別的な職務質問など具体的かつ深刻な帰結をもたらしている状況が明らかとなった。